



THANKS 30TH

厚別店 30 周年の
ごあいさつ

誕生と存続の 秘話

まほろば主人 宮下 周平

まほろば
厚別店

83 年 12 月アパートでまほろばの産声。
翌 6 月 23 日に、西野の一軒家から、正式な
店舗スタート。

翌年 85 年に八軒店を開き、87 年の 7 月に会
社設立。

翌月 8 月に、厚別店を開いた。
その間わずか 3 年のことだった。

厚別店誕生

8 月 7 日、厚別店をオープンしたものの、
閑古鳥が鳴いた。

「こんなはずじゃなかったはずだ！」
どうして、こうもうまく行かない？

喫茶店を併設して専属の女の子と、化粧品
コーナーを設けてアドバイザーを置く。魚コ
ーナーには専門の魚屋さんに来てもらう。店
内は斬新な設備と対応で、生産者の映像が映
り、店内放送が鳴り響く。そんな中、誰も助
っ人はいない。独りで立ち回っていた。開店
の当日、徹夜で店内を装備して、市場に向か
う。行き帰り、ふらふらの状態で意識朦朧た
ったのを今でもハッキリと覚えている。配達
も自分で回り、本店と八軒と連絡しながらの
仕事。とにかくハードだった。どうして、そ

の難局を切り抜けたのか思い出せない。相当、混乱していたのではなからうか。

「小国寡民」の杭

あの当時のエネルギーは何処から来たのだろうか。もし、その力を継続したなら、どんなことも成し遂げられただろうに。しかし、天はそれ以上のことを為さなかった。そこに老子の「小国寡民」という杭を、わが前に打ち下ろしたのだった。

急速に発展させることに、反省の壁を作った。そこからが長かった。黙々と日常の業務に明け暮れる毎日が営々と続いたのだった。外に向けられた目を、内部に向けることを強いたのだった。

人材陸続として入社

そんな劇的な時代を迎えて、しばらくして合田親司さんが入社して厚別店を、大橋和則君が入社して八軒店を任し、どうにか軌道に

乗りかかる端緒を開いた。こんな時に労働争議が起こったりしていろいろな世間的苦勞をしたものだった。とんだ所に、入ってきたのが今の太橋本店々長で、今まで苦樂を共にしてきた。同じ飯を食べて、朝晩、実践と講義のごちゃまぜの中、その神髓を見事会得して今日を引き継いでくれている。合田さんは、終始一貫してまほろばのよき理解者であり、精神的な同志であった。この結束があつて厚別は盤石になったのだ。しばらくして島田浩君が、今度は麻布店を開いた時に入社して、

自然食の店が開店

地下鉄ひばりが丘駅前 本物志向打ち出し

無添加食品の発掘、普及をコツコツ続けてきた総合自然食品店「まほろば」経営、宮下周平さん(三〇)と西野六郎(二〇)が、永年にわたって蓄積したノウハウを生かし、フロンティアを拓く。地下鉄石原別中央一の三、地下鉄ひばりが丘駅前に「東京以北では最大」(宮下さん)の自然食品店をオープンした。魚



入ルートを待つホッケやサケ鮎など魚類が初日からなかなかの人気ぶりで「長期保存は不可能なものばかり。在

豊富な商品が並ぶ自然食品店「白石区厚別中央一の三」
店長が「健康に良いだけではダメ。おいしくなくては」と「本物志向」を打ち出している。
同店は、売り場面積二八〇平方メートル。商品は千種を超え、鮮魚の冷凍ケース、精肉の冷蔵庫、喫茶コーナーまで、あらゆる無添加食品を揃えて、独自の仕

地方はもとより、山陰にまで及ぶ。また、トマト、ナス、キュウリなど野菜も市場に出荷しない「手作りの農家」と契約しているという。
宮下さんに共鳴した安本永治さん(三〇)店長代理は少数精鋭のスタッフが、市内全域に直接配達に駆けずり回す。同店の電話は894・51・551。

みな俄仕込^{にわかしこ}みだが、よくその修羅場を切り抜けて、今日の基を開いてくれた。

八軒店閉鎖！

だが、八軒店を開き、立て続けに厚別を開き、三店舗になつて継続して行くうちに、どうしても立ち行かなくなつた。経営でも、人面でも無理があつた。その時、どういう選択をしたのか。一番利益が上がつていたのが、八軒店で安定していた。厚別店が、最も赤字で、毎月50万円が累積していった。このままではまほろば全体が破綻する。厚別店をクロースさせる。選択肢は、これしか残されていなかった。

最後に、0—1テスト。すると、何と「八軒店を閉めよ」と、出た。

これは、危ない賭けであつた。だが、躊躇ちゆうちよなく八軒店を閉じた。

それは賢明な選択だった。八軒店のお客様は、ほとんど西野本店を利用してくださるようになり、厚別店は新興地域で、徐々に新しいお客様が増えてきた。

穂積店長、登場

それから20年以上の月日を、どうかやり繰りして来た。

その後、渡辺匠君たくみが入り、若い新風を吹かせて、2年ほどでやめるまで懸命に勤めてくれた。

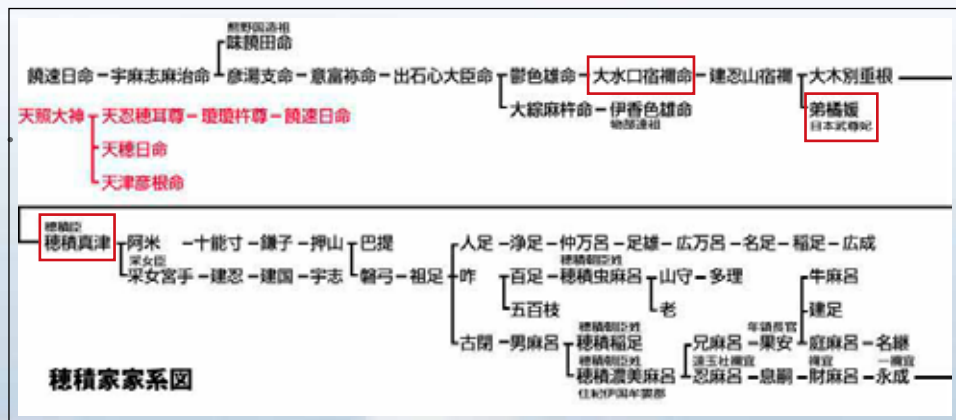
しばらくすると、大阪から二セコにスノーボード修行に来ていたのが、穂積豊仁君とよひとであった。

何を聞きつけて来たのか、まほろば農場で働きたいと言い出して、毎朝ニセコから日参。終には、テントをハウスの中に張って寝泊りするよ
うにまで熱中した。しばらく農園勤務でいたのだが、合田さん定年退社の跡継ぎの若手の渡辺匠君も活躍の内に辞職。その後釜に白羽の矢が当たったのが有能な彼だった。急遽、畑から店への転職。もう10年にもなるであろ
うか。

ところで、最近、不思議な重大発見があったのだ。

それは穂積店長が、あの弟橘姫の子孫であつたという驚くべき新事実であつた。

穂積家は古事記にもある旧名家で、



入水する弟橘姫

たけおとやまのすくね
建忍山宿禰の娘が
弟橘姫であつたの
だ。そしてその祖父・
おわみなぐちのすくねのみこと
大水口宿禰命が、大橋
しのぶさんの次の「会津
から近江、そして倭へ」
の近江篇にも書かれるわ
が母方、倉田莊の甲賀市
水口の出であつた。遠い
祖先が一緒だつたのだ。
まほろばの由来となつ
やまとけるのみこと
た倭健命の命を救う
ため入水したのが姫であ
つた。

「さねさし相模の小
野に燃ゆる火の火中に
立ちて問ひし君はも」
が、通奏低音となつて
健の魂の根底でなつてい
た。いわば、その返歌
ともいふべき歌が、
「倭は 国のまほろば
たたなづく 青垣山
隠れる 倭しうるはし」
そこに衝撃的な祖縁
を感じたのだった。彼

無農薬野菜を選別



品質は本物

夢は自給自足の村作り

万、加工方法を聞くんです。その結果はほぼ100%見込み通り。限りなく自然に近い生産物です。無問題でも体に良くないという産子大入りの自然食品を対する考え方が、ほかの店に比べていい製品だと筋肉がヒクヒク

「まほうば」の商品の本物ぶりを物語っている。

まろは

て行進、品物をひとつずつ手に取って選別する。その時行方、が筋力検査という独自の方法、手に取った時の筋肉の収縮が、自分の体に良いものを判別する、という神秘的なもの。もちろんそれだけで仕入れを決するわけではなく、ピンと張ったものの生産者に連絡をとってやり

○略歴 昭和五年八月二十日、長野市上井の野嶺、具親南高草
宗後、奈良、東部等をはめくつて、神、教などといはれし間の
宗教施設、強ちに自然書庫に助つて、数千人入と新刊し
たのをきつて、一書受はを前記、手紙は大地君と云ふ。
車は商用手車、小車といはつてゐたが、

りた店員もお客さんの不勉強で、
さんが格安にしてくれた」とい
ろ重宝れたスタートも、富下さ
んの温かな人情、説得力のある
話しぶりが大きなモノをいって
いた。

そんな性格はあだんの生活を
りにもよく表れている。年商一
億5000万円が見込める企業

0/15日のE
が掲載されま
筋力テスト」の
たので 皆様

のアルバートを毎月間接的に
ためた100万円を死に、本
州から自然葬要任は、佳園
のアルバートの名義で無期に陳列
したのがこの仕事の始まり。
「死ねずとも」と近所に
配っていたのが評判となり、
50年6月に札幌
・西野店をオー
プンした。西
野のバスター

リスポーツに“言
え。

10/15日の日刊スポーツに「まほろば」
が掲載されました。
「筋力テスト」の事を取り上げて載せて
たので、皆様に御紹介致します。



宮下 周平さん

余り物も走らない。酒、なほは
はもろちんやらない。「趣味は
寝ること」だけで、眼も「この
五年間一枚も眠っていない」。
ガス、水道、電気、電話代と
「買ひ物はトイレッペーバー
とゴミ袋くらい」(『渾身夫人』
で、一月二万の家の生活費で
まかなっている)。

んだ。うしろの自然食品がいかに体にいいかというのを身をもてきかして、まず「お下さ」は言葉。でも来生は、加土麻呂を働かした自給自足の村をわけて、とうとうお下さん、大森なまの道を胸に、精力検査のでる岩の左腕を武器にして市場道しを続ける。

◆真秀天地 古事記に記されている「世の中で一番いい場所」が「真秀天地（まほろば）」。「愛媛・大洲君の名前もこれからとっている」。

◆ベストスリー まほろばの3大人気神話はオリブ油。生しょうゆ、生みそ、しょうゆ。

◆筋力検査をする宮本さん（右）と洋子夫人。筋肉の収縮度合いと血圧値を見分ける。

ゆもみきも粉脚がしてなく
解肉が透いている状態。
▲注意。①、自然食品では
保存料が含まれていないた
め、通常の商品と比べて倍の
スピードで腐りやすい。在庫
量は常に家庭の食卓に並
ぶ。

神秘の手腕で真の自然食品を

※の部分が事実と違いますので裏面に訂正文を書きます。

時 號
 十月十九日

「日刊スポーツ」に掲載。「夢は自給自足の村作り」が30年後、漸く始動された。



西野本店/札幌市西区西野4条2丁目7 TEL(011)865-5624
 八軒店/札幌市西区八軒3条東1丁目 TEL(011)612-5481
 厚別店/札幌市白石区厚別中央1条3 TEL(011)854-5551

も、来るべくして、まほろばに來たのだろう。それから、彼は己が使命を自覺して、厚別店の業務に一層励むようになったのだ。

駐車場に泣く

最初手掛けてから、皆に任せて30年の月日が経ったとは到底思えないような厚別店じねんぽうてん。自然法爾じねんぽうにで、今日まで成り立って來たのは、脅威と言わざるを得ない。

今一つ、今日に至るまでに大きな轉換の山場を迎えたことがあった。それを、最後にお話ししたいと思う。

この業界のベテラン合田さんが店長になり、ようやく経営が安定し始めて、両店は兩輪のように相補相助關係になった。お客様も増え、活気が次第に出るようになった。しかし、唯一欠点があった。それは、駐車場が完備されていないことだった。それで、売り出しの時など、路上駐車のために、御近所の方から警察に通報されて、お客様にも周囲の方にも大変ご迷惑をかけてしまっていた。だが、どうしても隣接の駐車場に空がなく他に方法がないままだった。そんな泥仕合が続く中、切羽詰まって、移転を考え空き店舗を見て回

る日々だった。

そこに、2008年、突然朗報が入った。

移転するか否か!?

それは郊外型複合ショッピングセンター新設に伴う誘致であった。ある企画会社からの話は、まるで渡りに船で、まさに「時を得た!」。これは天縁であると思じられるほどの内容であった。話し合いを進めて行くうちに、条件が見事こちら側有利に運んだ。誰もが聞いて実行に移さない者はない好条件であった。それを列挙してみよう。

- ・ 先ずは、駐車場である。屋上の駐車場は、何台でも使い放題である。
- ・ 国内大手のハウスメーカーさんからの勧誘で、信用が第一であった。
- ・ 見積もった内装費を、向こうが持つてくれるという。
- ・ 100万円の家賃の所、特別に厚別店の家賃に近い額で良いという。
- ・ 店舗貸しは定期借家で不利の所、一般住宅の普通借家での契約で良いという。
- ・ 売り上げは、閉店後店内の集金BOXに入れ後日送金されるが、毎日持ち帰って良い。
- ・ 偶然の一致か、本店と同じL字型店舗であ

り、地形的に黄金比のイヤシロ地であった
・ 本店はエリクサーで水象、厚別店はパン工房を中心に火象、水火相交の易理が成った。
・ 本店と繋ぐ直線上の丁度中心となる一点が、知事公館の池のあるアイヌの聖地であった。

・ 開店月の10月11月は、占星術でも最良の吉方吉日開運月であった。
・ しかも、北洋銀行が無担保で融資を約束してくれたのだ。

・ そして、TKC会計監査事務所の所長も、諸手を上げて大賛成をしてくれた。

・ ハウスメーカーの会長の出身地は吉野川上村、日本最初の水の神社が祀られて、エリクサーと通じていた。

・ さらに「大和は国のまほろば……」で、神の結縁と思われた。

これだけの揃いも揃った好条件は、あり得ない。到底考えられないことだ。このショッピングモールのテーマがオーガニック&ナチュラルだったので、店の中央に是が非でも、まほろばを据えたかったらしい。生涯一度有るか無しかのビッグチャンスだろう。「チャンスの女神に後ろ髪はない」というが、千載一遇の好機であった。

人生万般に応用

八軒店閉鎖

厚別店駐車場なし

ハウス勧誘

2000万円内装

40万円家賃

普通借家

売上持ち帰り

L字と東西、知事公館

イヤシロ地

10、11月占星術

北洋銀行無担保5000万円

TKC会計事務所太鼓判

大和会長吉野川上村

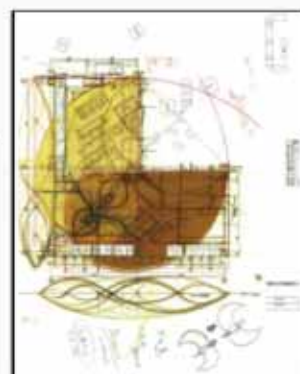
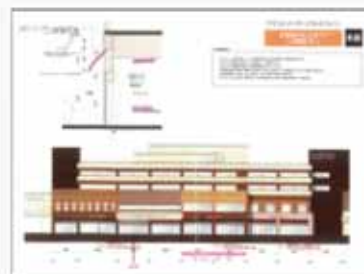
大和は国のまほろば

店長突然退社、開店日復帰

サブプライムローン 世界的恐慌

ある方、ひどい不景気

寄らば大樹の陰



店内設計を、本店で黄金比の「無限心」を発見したように、今度は水に対応する火のエネルギーで黄金比を描くと、そこには「火の鳥」が今にも飛翔しようと、羽根を開閉する雄姿が立ち現れた。これは、天啓に違いないと信じられた。あまりにもうまく行き過ぎる、今回の事々。詳細に設計をして、器具から照明、設備全般にわたって特定、そして準備完了。

明日は、契約！という前日。役員に集まってもらって、最後の会議。その時、あのエリクサーを作るか否かと0-1テストを皆でしたように、最後の決断を、0-1テストに委ねたのだった。当然、

OK!のサインが出るはずだった。みな固唾を飲んだ。

その時、天の裁量が下った。

何と、「否」である。

これには、一同顔面蒼白となった。

「ええ！何故！？」

これは、天が用意したものではなかったか。こんな画を描いたようなストーリーを誰が作るのか！ここまで、させておいて、何故最後の土壇場で拒否を！？

まほろばは、0-1テストの店。この結果に従うより他なかった。

自分たちの我儘というより、忠順であるより他なかった。

次の日、担当者に結果を告げたが、当然信じられないような面持ちであった。

無論、我々も心虚ろであった。

寄らば大樹の陰？

何故、こうした結果が出たのか？

それは恐らく、こうだった。

「寄らば、大樹の陰」

こうした生き方をしたくない為に、信念を貫くために、独立独歩して来たではないか。

誰にも頼らず、何処にも属さず、何時も我

が道に行く、はずだった。今回の件は、棚から牡丹餅^{ぼたんもち}。天与のようで、大企業の傘下に入るといふことだ。これに気付いた。これは、今までの志を挫く^く生き方であった。根底にこの思いが有るのにも関わらず、表面の利益、栄光、賞賛を求めて安易な道を行こうとしたに過ぎなかったのだ、と。それを、0-1テストが指摘して、天はそれを告げたかったのだ。そこに気付いた時、晴れ晴れして、きれいサッパリ忘れて、次に進もうと決意した。みんなにも、その真意を告げたのだった。

再出発の先に

再びと、今の地でやり直そうと、そう決心して、店内改装を強行した。

冷蔵庫をオープンにして床天井を貼り替え、棚を木製にして、何よりもその方向性を東西一直線上に本店に連なるように配置した。それが斜めに設置された今の棚だ。

これも0-1テストが導き出した結果だった。それは恐らく深層心理に働きかける、いわば生理的流体運動性ともいふべき



もの。直線性や垂直性は、出入り口しか念頭に浮かばないが、斜めは体に振^ねじりが入り、回転運動が起きて、何回も棚を回ることのできる地良くなる。いわば、店に居ること、自ずから安らぎが生まれるのだ。雰囲気も一変して、同じ店内とは思えない気が流れるようになったのだ。その訳があつてか、お客様も売り上げも好調に推移し出した。

ほどなく、何とあの塞がった駐車場が次々と空いて全部借りられるようになったのだ。20何年間一個も開かなかった所が、一遍に開くなんて！ これこそ奇跡だった。

独立独歩

改めて志操を守ったことに安堵した。何よりも、今までお世話になったお客様と離れずにこれからも交流できることに、大きな安らぎを戴いた。これが一番大切なことと知った。

大きな支配に惑わされない自分たちの自由な生き方が貫けられることに、新たな自信と勇気が頂けたのだった。

「まほろば」が独りであることの意味が、この一件で再認識されたのだ。

それは小さくとも気概のある会社でありたかつた。一本筋の通った店であるべきだった。それは社は「小国寡民」の証明に他ならなかつた。

これからの厚別店、皆様に感謝あるのみこうして、辿り着いた「まほろば厚別店」は、晴れて30年を迎えることになった。

目出度くして、愛^めでたい。

その間、長く健^{けなげ}気に務め続けて来たスタッフに改めてこの場を借りて感謝したい。歴代の店長やパートさん達が、どれほどの努力を払って今日まで働いてくれたか、感謝以外にない。

そして、何をおいても、こよなく厚別店を愛し、通い続けてきて下さった皆様に、心より感謝するものです。中には開店当初より、ご愛顧頂いた多くのお客様もあり、二代三代にわたる家族ぐるみのお付き合いに、そしてこれからご来店頂くであろう若き家族の方々に、さらに40年、50年の末永い交流を望むものです。

厚別店 30周年＊お祝いの言葉



開店当時の看板と店外の様子

2017年7月7日

まほろば代表 宮下 周平 拝

このようにして、お育て頂いた皆様方に、これからも変わらぬまほろばが、幾許かの心と体の支えとなりますよう、一同精進して参りたいと存じます。

重ねて、ご愛顧とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。皆様方の繁栄と、ご家族の方々のご多幸をお祈り申し上げます。

30周年のお祝い、誠にありがとうございます。

新たな30年への歩みを

THANKS 30TH

まほろば厚別店 店長 穂積 豊仁



いつも、まほろばをご利用いただき、誠にありがとうございます。厚別店は、1987年8月に開業し、今年で節目の30周年を迎えることができました。

これもひとえに、多くのお客様に支えられ、そしてパートナーである、産地直送の野菜や果物、お米の生産者の皆様、札幌中央卸売市場の皆様、こだわりの厳選商品の企業の皆様のご指導と、お力添えのおかげと、深く感謝しております。

自分自身も、まほろばに入社して10年目になります。最初は農園で3年、厚別店に来て7年です。

振り返りますと、目の前の仕事をこなすので精一杯で、本来であれば、もっと皆様のお声を聞いて、より良い店作りや、良い関係を築いていかなければならなかったと、自問自答する毎日です。

社長が仁木に帰農し、今年で2年目です。まほろばが、もう一度生まれ変わって新たな30年に向けた歩みが今スタートしています。

これを機に従業員一同決意を新たに、一層の努力をして、皆様のご愛顧にお応えしていきたいと思えます。今後とも本店、厚別店共々、ご支援ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。



「まほろば厚別 店開店30周年 おめでとうご ざいます!」

総合自然食品店ふきのとう

店主 佐藤 健一

このたびは厚別店の開店30周年、誠におめでとございます。

例えば宮下社長との出会いは29年前の厚別店でした。

当時、私は北見で飲食店を経営しており農家の青年達に頼まれて有機農産物の販売所をどういうスタイルで作るか思案しており、関東、関西の流通業者、卸業者を周って最後に札幌の自然食品店巡りをしながら考えておりました。

しかし、本州の卸し業者や小売業者を見て思ったほど「ピン!」とくるものがなく調味料や化粧品、洗剤、有機野菜なども時代に合わせた形だけのもの、合理的な経営のための品



ふきのとうさん、佐藤社長のご一家の皆さま

物や利益を上げる方法ばかりが目につきました。

北海道の冬の野菜や果物のそろえ方も見るため、職業欄の電話帳を頼りに札幌市内を周ってみても、玄米菜食を中心とした変わり映えない経営者の、こだわりだけで考えている視野の狭い感じがしました。

そして北見への帰路に「まほろば厚別店」の看板を見つけたのです!

正直あまり期待もせずにドアを開けたところ、鮮魚があり、豚肉や乳製品もあり、冷凍の魚や肉製品もあり驚きました。野菜や果物のコーナーにはリンゴの香り、柑橘の匂いが遠くまでしておりました。

「こんな香りのする果物は見たことがない!」と一緒にきた知人も驚いている。今までにない広い店内、化粧品やシャンプーコーナーも充実して、調味料や副食品、粉類、乾物類なども見事に揃っている。

ワクワクしながら「北見で自然食品店を始めたいのですが・・・」と話しかけた方が宮下社長でした。

「それはおめでとございます!今日は店長が休みで魚を仕入れて市場から帰ってきたところです。私が厚別店にくるのは水曜日で朝の30分程しかいませんから、ちょうど良かったです。」と言って名刺を戴きました。

この時がなければ、まほろばさんとは一生縁がなかったかも知れません。

その後、本店に戻る多忙な時間に2時間も時間を取って頂き、自然食品とオーリングテスト(0-1テスト)の話をお聞きしました。

★国産の豚肉や牛肉もホルモン剤や抗生物質に頼っている

★魚介類もホルモン剤やリン酸塩が多くなって

いる

★有機野菜（無化学、無農薬栽培）でも良いものが少なく、低農薬でも良いものが多くある。

★低農薬でも初期の農薬は雨や風で土に落ちて土壌微生物が分解してくれるので、土作りで野菜の生命力が決まる。

★生産者や製造者の性格や真剣度が良いものができる原点

★市場は全国からピンからキリまで集まる所で、筋力テストで宝物が見つかる最高の場所

目から鱗の本当に驚く内容でした！

単に「無添加」「無農薬」だけではダメで、「本質はどこにあるか！」だと気付かされました。これはこの後からも大きな仕事の力ギとなりました。

まほろばさんの野菜や果物を始めて食べた時に、妻もその味に驚きました。

今まで試しに産直でとった無農薬野菜や果物でもあまり感動する味はなかったのですが、まほろばさんの野菜や果物はジュシーで濃厚な甘味があり、遠くからでも匂ってくる柑橘類やりんごなどすべてが違うのです！

妻も口に運ぶたびに「全然違う！」と唸っておりまして。

ほとんど間違いなくこれら本物の野菜を仕入れるオーリングテストの能力に、ただただ驚くばかりでした。

当時の宮下さんは、私どもが店を開店して年に何度か本店にお邪魔したり、電話でお聞きしたりする中で、大橋店長さんが入社する前は大変多忙な状態でした。

夜遅くまで野菜の配達や生産者や製造者との情報交換、栽培の状況を聞いたり当時は手書きで会報を書いたり、奥様と筋力テストとしながらお客様の健康相談など、定休日でも休む暇なく仕事の連続で、特に奥様は小さい子供さんを抱えて休む暇なく働く姿には驚きました。

単に小売り業として、仕事として、自営業としてこれほどまでに働く意味はなんだろう？
いつもご夫妻を見て思っていたものでした。

ある時は休みの日にも具合の悪いお客様を自宅で筋力テストしながら健康相談の話をしてる様子を見て「昔の聖者はこういう感じだったのではないか？」と思ったほどです。

「自分の休みや時間がなくても困っている人を助ける」

本当に宮下社長ご夫妻には冠婚葬祭以外は休みがない気がしております。

今の本店が新しくなっただけからは、0—1テストで浄水器を始めとして数々のオリジナル商

品を開発し、全国、海外からも著名な方が訪れたり驚く発展を遂げています。私自身、海外の方からメールを戴いたこともあるほどインターネットの普及で海外にまでオリジナルブランドの認知度が高まっております。



このオリジナル商品の凄いところは、大企業が真似のできない原材料、ノウハウを持っている事だと思いますので、宮下社長ご夫妻は私は「無」から「有」を作る「現代の錬金術師」と思っております。

天才は秀才とはまったく違うことがわかりました。

自然食品業界でも「北にまほろばあり」の独自性は、全国からメーカーや問屋、小売業の人達が視察に訪れ、業界以外の人達にも勉強に訪れるほど大きな存在感があります。

札幌へきて忙しい時には本店に寄らず帰路、厚別店を見学させていただきますが、スタッフの人数も増え、時代に応じて商品構成を変えて冷蔵商品や冷凍商品も充実し、住宅地の多い地域の安全な拠点として特に若いお客様が増えているように思います。

私も田舎で情報が少ないところですが「まほろばだより」で多くの知識をご教授戴き、その教養の広さ、知識の深さに、30年近く経っても進化するまほろばさんには驚く毎日です。

昨年から社長ご夫妻が新規就農を果たしたことで大橋店長さんはじめスタッフの方達も大変だったと思いますが、これもさらにまほろばさんが進化する「第二幕の夜明け」のようにも感じております。

厚別店の皆様も穂積店長さんの元、さらに、さらに大きく飛躍し、地元の皆様に愛される店作りを一層精進して下さることを念じております。
◀(L)▶

総合自然食品店ふきのとう

店主 佐藤 健一 拝

THANKS 30TH

まほろばから 学んだ「感謝」 の想いを忘れ ずに

DOKODA

店主 渡辺 匠

まほろば厚別店30周年おめでとうござい
す！ 10年ほど前に店長をやらせていただい
いた渡辺匠といいます！

大学出たての22歳から25歳までの3年間を
まほろばで過ごさせていただきました！

まほろばを退職し、オーガニック
の食材でドーナツ屋を始めました！

あれからはや7年。ドーナツ屋は
形を変えお昼はコーヒー、夜はお酒
を楽しむ地元のBARになりました。

昨年からは大通り、すすきのエリア
にダーツ、ビリヤードのできるBAR
も出店しました。

従業員も社員2名アルバイト13名

を抱えるところまで成長しました。

30周年にはほど遠いですが、『継続は力なり』
という言葉の通り、諦めずに試行錯誤し続けた
結果だと思っています！

そして、今の僕があるのも右も左もわから
ない僕に、店長という役職を与えてくれた社長
まほろば全スタッフの皆さん、そして何よりお
客様の支えがあったからだと思っています！
本当にありがとうございます！

まほろばから学んだ『感謝』と言う想いを
いつまでも忘れずに、これからも一生懸命頑張
っていききたいと思っています！

繰り返しになりますが、この度はまほろば
厚別店30周年本当におめでとうござい
ます！
P・S ミュージシャンまだ続けてます(笑)

